

第60回東京矯正管区教誨師研修茨城大会評価委員会議事録

1 日 時 平成29年6月28日(水) 13:00~15:00

2 場 所 茨城県神社庁会議室

3 出席者

茨城県教誨師会

大会委員長 飯塚 重 (水戸刑務所所属)

大会事務局長 増田 廣神 (水戸刑務所所属)

大会副委員長 田村 晃洋 (水戸刑務所所属)

大会副委員長 大喜多正洋 (茨城農芸学院所属)

大会副委員長 鷺元 明俊 (水府学院所属)

藤本 真教 山崎 成人 (水戸刑務所所属)

海老澤裕之 (茨城農芸学院所属)

延方 量昭 (水府学院所属)

関係者

高橋 勝利 (水戸刑務所副看守長)

中川 由美 (茨城農芸学院統括専門官)

會田 悟 (水府学院専門官)

4 内容の評価

茨城県教誨師42名を除く研修員143名に対してアンケートを実施したところ
96名から回答があり、以下の集計結果となった。

(1) 研修内容について

「良かった」82% 「どちらとも言えない」17% 「良くなかった」1%

アンケート結果抜粋

中島氏の講演が良かった。 22名

一つのテーマを掘り下げた。 11名

研修の組み立て方が良かった。 10名

テーマ・講師設定が良かった。 5名

討論や質問の時間が少なかった。 9名

時間の都合で分科会が短かった。 5名

教誨師の実態に比べテーマが大き過ぎた。 3名

※ 評価委員会

- ・ アンケート結果からも講演等、研修部分は極めて好評であった。
- ・ 教誨師以外の宗派関係者の応援により、案内や映写も概ねスムーズに行えた。
- ・ 講演において時間配分を超えたことにより、分科会実施時間を短縮せざるを得ない状況となり、休憩時間を調整した結果会場内への途中出入りが

見受けられた

(2) 研修成果について

「得たものがあった」	86%	「どちらとも言えない」	10%
「なかった」	0%	無回答	4%

アンケート結果抜粋

(何らかの)気づきを得られた。	20名
役割を考える会になった。	10名
視点の多様性を感じた。	2名
現場とのつながりが難しい。	4名
目新しいものはない	2名

※ 評価委員会

- ・ 保護司の参加は、教誨師の活動についての理解が得られ、情報共有にも有意義だった。
- ・ 教誨師として深く考えさせられる良い講演だった。
- ・ キャパがあれば将来的には是非一般の方々にも参加できる方向で検討したい。
- ・ そういった意味でも広報に重点を置く視点は重要である。

(3) 実施体制について

「十分だった」	81%	「どちらとも言えない」	17%
「不十分だった」	0%	無回答	2%

アンケート結果抜粋

スムーズな運営だった。	12名
手作りの大会と感じた。	9名
案内誘導が不十分	6名
時間配分通り進まない。	6名

※ 評価委員会

- ・ 他大会の成果を参考にして、茨城県教誨師全員の共通理解を深めるよう、事前準備が入念に実施できた。
- ・ 研修成果をより効果的にするため、研修内容の企画立案に早急に着手した結果、余裕をもって要綱の原案作成ができた。
- ・ 経費節減を図るため、手作りの大会実施を基本方針とした。
- ・ 5つの部門を設け、担当者が、担当する部門に全力を傾注できるよう配意した。
- ・ 企画実行委員会を頻繁に実施したことにより、茨城県内所在の3施設教誨師及び施設職員の横の連携が図られた。
- ・ 旅行者を介さなかったことで、部屋割り・席割等、直前の作業に手間取ることがあった。

(4) 満足度について

「満足」	56%	「やや満足」	29%	普通	14%
「やや不満」	0%	「不満」	0%	無回答	1%

※ 評価委員会

- ・ 満足度合いが約半数だった。全員が参加してよかった、との印象を持ってもらうのは極めて困難であるが、今回いただいた貴重な意見や提言を今後に生かすことが大切である。

(5) 全体を通した感想・意見・課題・改善点について

アンケート結果抜粋

(講演に関するもの)

- ・ 秋葉原事件の講演を拝聴し、「本音でつながることのできる唯一の関係」このことの難しさというものが明白になった。宗教者として、また教誨師として、はたまた一人の人間として考えていかなければならないと、私の一生の課題となった。
- ・ 書籍「秋葉原事件」は大変興味深く、拝読させていただいた。このテーマから私が教誨師として学ぶことは「どうやったら彼を止められたのか」「第2、第3の〇〇を出さないためには何をすべきか」を考えていくことだと感じた。
- ・ 私は宗教家として、縁ある方々に「人生の力」となる言葉、苦しいとき、悩めるときに「支え」となる言葉を語り、提示し続けたいと思う。
- ・ 自身の伝えようとするものが本当に伝わっているか、振り返りたい。

(講演以外の研修に関するもの)

- ・ 3つの分科会で、それぞれ違うテーマで開催されていた点。当初から分科会を指定されるのではなく、各教誨師が自分の教義、課題に基づいて参加する分科会を選べれば更に良かった。
- ・ 本音で向き合うのは難しいが、その現状を少しでも良くしていきたいと努めたい。
- ・ 分科会の時間をもう少し調整してほしかった。
- ・ パネラーの発表、施設職員の助言のほかに会場参加者の意見、感想を述べる時勤が十分に欲しかった

(運営に関するもの)

- ・ とてもスムーズな大会の進行だった。
- ・ 企画運営素晴らしい。
- ・ 会場の交通の便が良く、駅からも至近だったのが良かった。
- ・ 講演の後、全体討論の形態を取っても良いと感じた。

- ・ 分科会の持ち方を考えてもいいのではないか、どうしても行刑と少年院の指導方法が少し違うように感じる
- ・ 主題「未来へ」がもう少し前に出ていたら、さらに良かったのでは。

(感想・提言)

- ・ 本大会を通して、教誨師の方々の熱い思いと意気込みを感じる事が出来た。
- ・ 大会から得た有意義な討論を、これからも益々情熱のある心を込めた教誨活動をしたい。

5 評価全般

研修を通して今までの自身の認識が改められたという結果が7割を超えた。新たな知見は新たな課題となる。ここに本大会の成果が認められる。

同時に、「研修のねらい」に挙げていたのが「教誨師の資質向上」である。アンケート結果からも伺えるように、「伝える」と「伝わる」ことの違いを知り、「本音で向き合えていない」からこそ、未来へ向け歩もうという思いの表明があった。

「報告をうけて」では、今回の研修は「秋葉原事件」を切り口としたが、全ては教誨師自身が問われていることを確認し、参加者全員の共通理解を得ることができたことが最大の成果と言えよう。

なお、2日間を通して一貫したテーマを掘り下げ、まとめを教誨師自身で作りに上げたところに本大会の特徴があった。

研修を行い自己研鑽に努め、個々の教誨活動に反映されることが研修実施の最終目的であり、より一層の内容充実に努めたい。